

鍋島中第14号
令和 8 年 4 月 3 日

佐賀市教育委員会 様

学校名 佐賀市立 鍋島中学校
校長名 青柳 正文

令和8年度教育課程について(届出)

このことについて、佐賀市立小・中学校の管理運営に関する規則に基づき下記のとおり届出します。

記

- 様式1 学校教育目標、本年度の重点目標、重点取組内容
- 様式2 学年別授業日数及び授業時間数の配当
- 様式3 週時間割
- 様式4 令和8年度学校行事

令和8年度 佐賀市立鍋島中学校 教育課程

1 学校教育目標

「夢と感動にあふれ 豊かな心で 主体的に学ぶ生徒の育成
～ enjoy challenge teamwork ～」

2 本年度の重点目標

- (1) 魅力ある学校づくりや学校課題の解決に向け、全職員が心を一つに組織的取組を推進する。
- (2) 生徒に将来の夢や希望、目標をもたせ、その実現に向けた努力を促す。
- (3) 生徒の良さを見つけ、認めて、「ほめて伸ばす人づくり」を積極的に行い、自己肯定感を高める。
※ほめほめ大作戦。出番・役割・承認。承認プレート。
- (4) 社会に開かれた教育課程の実現を目指し、家庭や地域等との連携を深め、より効果的な教育活動を行う。
- (5) 全教職員が「教育愛」に満ち溢れ、チームワーク、フットワーク、ネットワークを発揮し、「即時対応」を合言葉に機動力の高い職能集団を育成する。

3 重点取組内容

(1) 学習指導の充実

- ・生徒の学習意欲を喚起し確かな学力を定着させる。
- ・「鍋中学び合い」の改善・充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を目指した学習指導を行う。授業開きの際に、全ての教科でシラバスの確認を行い、生徒・教師が共に見通しをもって生徒の主体的な学びの実現を図る。
- ・基礎・基本の定着を図り、毎時間の「めあて」「学習の流れ」「振り返り」の場面を設定し、生徒が多くの場面で「自己決定」するような授業実践を行う。
- ・言語活動を取り入れた学習指導に取り組み、自分の考えを豊かに表現するような工夫を凝らした実践を行う。
- ・ICTを活用した学習指導に取り組み、生徒の学習意欲の向上と理解促進を図るとともに、家庭での効果的な活用方法を探る。

(2) 生徒指導の充実

- ・生徒が主体的に考えて行動するように伴走支援し、「ほめて伸ばす人づくり」を通して、自己肯定感を高める。
- ・生徒指導主事を中心として、計画的・組織的・継続的な発達支持的生徒指導を実践する体制をつくる。また、地域や関係機関と連携してサポートチームを編制し、協力・援助を生かせる指導体制をつくる。
- ・生徒指導の実践上の視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を生かす。
- ・法を守ることや規範意識を身に付けること等について、全校・学年・学級で周知徹底する。
- ・インターネット・SNS・生成AI等の正しい使い方と危険性等について理解するため、情報モラル教育を充実する。生徒への説明・注意喚起については、情報教育担当による集会を年に1回実施するとともに長期休業前には生徒指導担当から話をする。保護者にも新入生説明会や学年PTA等で周知し、注意喚起を行う。

(3) 特別支援教育の充実

- ・特別支援教育の視点を基盤とし、特性や多様なニーズに応じた支援・援助を行い、個性の伸長を図る。
- ・複数の視点から生徒の実態を適切に把握し、巡回相談等を活用しながら生徒の困り感の解消に努める。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の配慮が必要な生徒や、気になる生徒に対して個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、中学校卒業後の進路を見据えた支援・援助を保護者や関係機関と連携しながら計画的に推進する。
- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、インクルーシブ教育の視点に立った教育活動を実践するとともに教職員のスキルアップを図る。

(4) 教育相談の充実

- ・支持的風土の学級・学年づくりを推進し、適切な人間関係を築くことや、家庭・地域と連携を図ることで不登校の解消に努める。
- ・生徒一人一人が学級・学年・学校内に自分の居場所を実感し、安心して学校生活を送れるよう生徒の実態に応じた開発的生徒指導を推進する。
- ・日頃の観察や教育相談、WEBQUなどの各種検査などから生徒の実態把握に努め、チームによる生徒支援を推進する。
- ・生徒と「つながる」ことに重点を置き、教育相談担当を中心に、教職員、SC、SSW、別室対応支援員、サポート相談員等とともに不登校対策を進め、不登校生徒の学校(教室)復帰を図る。状況によってはケース会議を開き、より効果的な対応を検討する。
- ・生徒と教職員の交流を進めるとともに、異なる校種の教育理解を深め、義務教育9か年を見通した学習指導・生徒指導の充実を図る。
- ・3校連携協議会(鍋島中、鍋島小、開成小)や担当者連絡会開催、共同実践(あいさつ運動、相互参観、職員研修等)を通し、小中連携のステップアップを図る。

(5) 「いのち」を守る教育の充実

- ・朝の交通指導や毎週水曜日の下校時に職員による交通立ち当番等を行うことで生徒の様子を把握するとともに、交通安全についての講話を定期的に行い、安全指導の徹底を図る。
- ・生命尊重・人権尊重を基盤とした安全・安心な学校を目指し、道徳や人権・同和教育、いじめ・いのちを考える日の取組等を充実させ、生徒が自分事として主体的に考え実践できるようにする。
- ・災害避難・防災訓練を行い、生徒への安全教育の充実を図る。また、訓練前後で、生命の尊さについて理解し、かけがえのない生命を尊重する心を育む道徳の授業や防災教育を行い、「いのち」を守ることについての意識を高める。

4 学年別授業日数及び授業時間数の配当

(1)年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	15	18	22	14	0	19	21	19	18	15	18	17	196
2	17	18	22	14	0	19	21	19	18	15	18	17	198
3	17	18	22	14	5	19	21	19	18	15	18	5	191
備考	夏季休業中に3年生のSAGテスト実施、授業時数確保のため、5日間登校日を設定する。 1年生は、入学前日数が2日、3年生は卒業後日数が12日あるため、授業日数が異なる。												

(2)必修教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等の年間授業時間数配当表

領域		学年	1	2	3
必修教科	国語		120	120	95
	書写		20	20	10
	社会		105	105	140
	数学		140	105	140
	理科		105	140	140
	音楽		45	35	35
	美術		45	35	35
	保健体育		105	105	105
	技術・家庭		70	70	35
	外国語		140	140	140
	特別の教科道徳		35	35	35
総合的な学習の時間			50	70	70
特別活動(学級活動)			35	35	35
総時数			1015	1015	1015
生徒会活動			4	4	4
学校行事			6	6	8
その他			8	8	6
総計			1033	1033	1033
備考					